



発行 KOA 森林塾 (事務局)
0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路

第7回森林塾報告 テーマ「間伐」
『未来を想定した間伐』

「ねえ、昨日の夜はどうしてたの」
「そんな昔のことは覚えちゃいない」
「今夜はどうするの」
「そんな先のことはわからない」

「い」
こんなカサブランカのボギーのような人にはとても山の手入れは任せられません。島崎先生が提唱された保残木マーク法は、植えられた木



イントラとお揃いのヘルメットの長坂さん。真剣そのもの

が六十歳になった時、何本がどのような間隔で残っているかを想定して、今の手入れをするという、画期的な方法です。
お借りした浦野山林を例に取ると、このヒノキは現在およそ三十五歳、上層樹高が十七メートルくらいでしたので、二十五年後、六十歳の時には七百十本残っている、とイメージされます。樹高は二十二メートル、この時点のSrは17にするとすると・・・。
今抜き切りしなくてはならないのは、二十五年後まで残す木の生長を現在邪魔しているもの。ということは最後まで



まずは現況調査。樹高を測る

では残らないだろうが今は切る必要がない木、というフレンジイな範疇に属する木も存在することになります。この方法の特性です。
そして今後の二十五年間にどの木をどういった順に切るかをおおよそ頭の中で決めておくのは必要ありません。ですからやはり理想は、同じ人が同じ山の手入れを継続して行なうことではないでしょうか。少なくともそういった覚悟を持って手入れをする、そして手入れが続けら



桃澤さんの枝払い。ゆっくり慎重に



もう少し肩の力を抜いてください白壁さん

伐木造材から約一ヶ月。チェーンソーの使い方は、まだ体が覚えていてくれたでしょうか。初回ほど緊張した姿は見られなかったものの、使いこなせるようになっていくには、まだまだかなといった感じですが、あせらずにゆっくりと。
伐倒の時に大汗をかくのは、慣れた人でも初心者でも変わりありません。やはりそれだけ集中しているからで



音と煙のわりに刃が食い込まない風見さんの受け口づくり

今回の内容
第7回 7月20日(金) 間伐

8時30分 KOA パークに集合。梅雨明け十日、森林塾としては久しぶりに雨の心配は無い。島崎先生の顔が見えないが、携帯に「小屋にきてしまったが今そちらに向かう」と連絡が入る。保科先生のあいさつ、班分けの後、車に分乗して箕輪町、萱野高原入り口の浦野山林へ
9時15分 現地着。間伐の必要性、方法等について島崎先生の説明。「本数は変わらないのに込んでくる」という事は、背が高くなってくるからです。「隣の木との間隔が高さの二割、が目安です」肝心なと

れない場合は、何らかの形で次の人に伝える方が必要です。
途切れていた山の手入れを今は始める時、大変な努力が必要で



10時20分 班に分かれて現況調査に入る。込み具合は場所によってやや差が出た。数字が出たところで島崎先生の、『保残木マーク法』の説明。
 今回はこの方法ではなく、五年後にSr18を確保できるという事を前提に、残す、切るのゼロ・イチ判



安全靴でワンタッチラダーに、ちょっと怖い栗林さん

ころです。『山造り承ります』では非復習しておいてください。
 遅れてきた鈴木さんも、ご主人、混杜君とともに合流。

定をし、残すものにテープを巻き、後は切る事にしました。

11時40分 昼食、工事中通行止めのため、車で10分ほどの菅野高原に登るのをあきらめる。伊那谷の眺めが素晴らしい所なのに残念

1時 午後の部開始。各班伐倒にはいる。一番奥に入った後藤班、倒す端からかかり木に。常に綱引きの威勢の良い掛け声。不思議なことにこの班には女性が一人もいない。
 宮崎、野口班は切るべき木の本数が少なかつたので早々に切り終え、ぶり縄講習を開始していた



久部さんのぶり縄、落ち着いています

まつかも
 参加者/奥嶋さん、風見さん、片岡さん、菅さん、栗林さん、佐藤(健)さん、佐藤(誠)さん、塩谷さん、白壁さん、溜さん、伴野さん、長坂さん、久部さん、逸見さん、松永さん、松ノ元さん、松本さん、桃澤さん、森さん夫妻、山浦さん、池田さん、稲垣さん、岡田さん、鈴木さん、則竹さん、芳賀さん、小川さん、藤本さん

講師/保科先生、島崎先生
 スタッフ/川島、後藤、野口、宮崎、大野、椎原、平林、坂野、坪木、此村、早川

次回以降の予定

Bコース夏の部

8月1日(水)~3日(金)
 1日10時島崎先生の山小屋に集合。測樹、間伐、伐出の一連を体験していただくと思えます。『山造り承ります』での予習をお勧めします。二十名(うち女性三名)の方の参加予定。



見ていて安心できる溜さんのぶり縄

第8回 8月18日(土)

伐出

8時30分 KOAパインパークに集合。間伐を行った箕輪町の現場で行なう予定です。林内作業車や、簡易ウィンチ等を使って材木を出します。

第9回 9月1日(土)

林道設計

測量道具を使って作業道を設計してみましよう。それを手作業で歩道として開設してみたい。現場は伊那市手良の野底区有林を予定しています。8時30分KOAパインパーク集合。

【暑気払い】

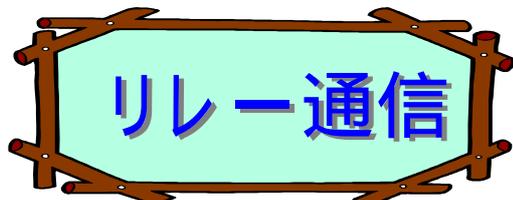
暑い夏にはビールが一番？
 そんな訳で今年も島崎先生の山小屋をお借りしてのバーベキュー大会の開催です。

今年の塾生の方々は酒豪ぞるいで、用意された食材とお

食されたでしょうか？
 そうはいってもやはり

森林塾の塾生、酒のつまみは環境問題、福祉の問題、山の問題など、日ごろ抱いている熱い思いを十分語り合っていました。(酒好きカメラマン)

島崎先生と語り合う塾生の方々



森林塾と私
 片岡 浩

私は現在、天竜川の下流である浜松市に生活しております。今年の一月末にて地元鉄道会社を定年退職したところであります。定年を迎えるにあたり、あれこれと自分でもやりたい仕事を検討物色してやりましたが、今やっている仕事を除けば何をやるにしようか、という認識と、忙しさにまかされてしまう始末です。

しかし、興味のある「山や森」に関する記事は熟読するとともにファイルをしておりました。新聞の「里山を見直す」という特集を読んでいると、島崎先生の「山造り承ります」が飛び込んできました。早速図書館にて借りて読破しましたが、そこには森林の惨憺たる現状と山を愛する先生の苦悩が切々と語られ、



山を守るうとする先生の心意気を感じました。私もずぶの素人であり、さらに高齢でもあるが、健康だけは自信を持っていてるので、少しでも何かの役に立つことが出来ないうものかと考えさせられました。

森林の重要性は温暖化対策、水源確保等々、枚挙するまでもなくメディアにより叫ばれておるのに、森林の窮状を救う対策が何ひとつ実行されてない現状を知るに至りました。定年後の私にも、「この状況をなんとかしなければ！」という気持ちがあふつふつと湧いて来ました。知識経験がゼロで、さらに高齢の私が役に立つことは皆無かも知れないが、これからの第二の人生二十年を、山や森にどうしてもかかわってきたいという思いが勝りました。

これら私の気持ちの根底には、自分が小学一年から中学三年までの九年間を大

井川の支流の山村に疎開して、多感な時期に田舎の山や森林に育てられたという思いがあるからだと感じております。この田舎の生活は、決して楽しいことばかりではなく、腹をすかせざるものもないう時代であったのに、山や川そして森林で友達と楽しく飛び回った事や、美しい自然、まわりの人々との懐かしい交わりばかりが思い出されます。まさに、



入っております。これらの思いのなかで森林塾に応募させていただき、塾生の一員に加えていただく事を心から感謝

謝するとともに、この一年間の研修をやり多きものとすべく、身を引き締めるものであります。今までに六回の研修を経験してみても、自分の体力の無さを実感し、さらに山仕事の継続する事の大変さをも覗かせていただいた程度ですが、その中に面白味を感じることも出来ました。それらの研修を簡単に振り返ってみます。

第三回 樹木分類
標高千四百五十メートルのブナ帯までの散策での先生か

第一回 植樹
一本の苗木を植えるのに一辺三十センチメートルの穴を掘るといふ事はまず、雑草と木の根との戦いの末に植えるのだと分かった。十数本を植えただけなのに、息が切れ顔には白い塩がこびりつき、体力の無さを思い知る。

今年三月まで東京に住んでいました。医療機器の設計に携わっていたのですが、会社のあり方や自分の生き方に疑問が生じ、伊那に移り住んできました。今は伊那技術専門校で木工の勉強をしていま

後半の研修については、今まで以上の集中力を持って頑張らなくてはと思っております。今後は「山にかかわること」を念頭におき、さらに知識経験を積み機会を求め、チャンスを逃さないようにしなければとつくづく思うものであります。また私達の年齢になると通常の雇用からは敬遠されることを勘案すると、よほど心して良い情報入手すると

リレー通信

「脱 都会生活」 菅 浩治

伊那は別のエピソードがあり、去年スイスに行ったときに、たった一人だけ一緒に夕食をとった人がいたので、その人はなんと伊那の人でした。伊那は何かと運命めいたものを感じます。伊那は自分が抱いていた理想郷にぴったりではないが近いところだと最近感じています。その伊那での週末の生活の一部

ともに、独創性ある知識経験を積み重ねなければと考えます。最後に、この森林塾の素晴らしい先生とスタッフの方々、そして縁あって一緒に学ぶよき仲間の皆様との出会いを大切にしてゆきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



